

精神科認定看護師が資格取得前に抱いていた期待の実態

西川薫¹⁾、杉本洋¹⁾、平井孝治¹⁾、金谷光子¹⁾

1) 新潟医療福祉大学 看護学科

【背景・目的】日本における精神科認定看護師制度は、1995年に患者ケアの質の向上と看護の専門性を発展させるために導入され、4分野で開始された。その後、社会の要請を反映して2007年には10分野に拡大、2015年には1領域に統合するという大きな政策転換をおこなった。しかし、この大きな政策転換の背後に精神科認定看護師の思いや期待が不明瞭なまま置き去られているように考える。精神科看護において高い実践を担うべき精神科認定看護師のニーズや現状を明らかにし、必要な支援を実施することでより高いパフォーマンスが期待できると考えた。

精神科認定看護師に関する先行研究としては（金城ら、2006）、（大塚ら、2009）が代表的なものである。しかし、これらの研究は実態調査に力点が置かれており精神科認定看護師の資格取得前後に抱いていた期待という視点が不十分なものであった。そこで本研究では、精神科認定看護師の資格取得前に抱いていた期待を明らかにすることを目的とした。今後、精神科認定看護師の資格取得後の期待を継続して研究し、期待の変化や齟齬を明らかにすることで、精神科認定看護師育成のための効果的なカリキュラムを検討する際の一助になるものと考えた。

【方法】対象者は、2014年4月末時点で一般社団法人日本精神科看護協会ホームページで登録されていた精神科認定看護師559名とした。調査方法は、郵送による質問紙調査とした。質問項目（図1）は主に自身の知識・技術に関する期待、患者ケアの質向上に関する期待、自身の処遇やキャリアアップに関する期待など14項目を4件法によって筆者らが作成した。分析方法は4件法をもちい「全く期待していない」の1点から「非常に期待していた」の4点までの平均値を求めることで期待に関する分析をおこなった。倫理的配慮として新潟医療福祉大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

【結果】調査票559件の発送に対し、回収数は281件（50.3%）、このうち有効回答数277件（49.6%）であった。性別：男性134名（48.4%）女性143名（51.6%）、年代：30歳代67名（24.2%）40歳代147名（53.1%）50歳代51名（18.4%）60歳代12名（4.3%）であった。看護師としての平均経験年数は17年11カ月であり、精神科認定看護師を取得後の平均年数は5年2カ月であった。

平均値が高かった項目は、質問項目8：自身の精神科看護の知識・技術が大きく進展することへの期待（3.5）と質問項目9：担当している患者へ質の高い看護が提供でき

ることへの期待（3.4）であった。一方、平均値が低かった項目は、質問項目5：現在の給与が上がることへの期待（2.0）と質問項目12：専門看護師（CNS）への道が開けることへの期待（1.9）であった。

その他の期待に対する平均値に関しては図1を参照。

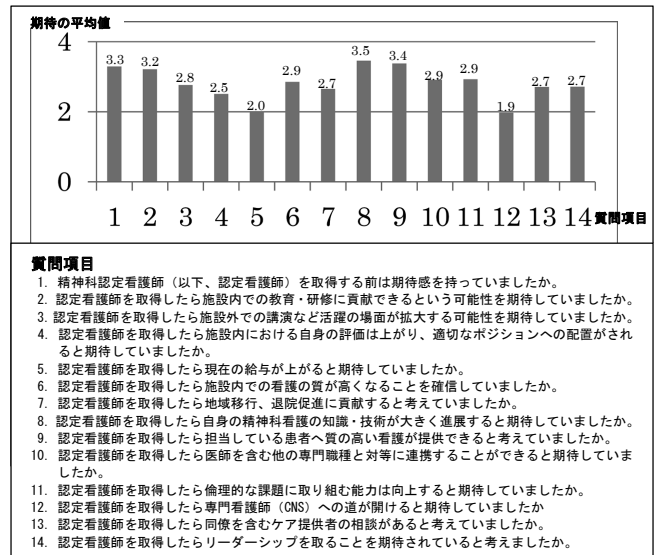


図1. 質問内容に対する期待の平均値

【考察】本研究において精神科認定看護師は、知識と技術を高めることで担当患者へ質の高いケアの提供を期待しており、自身の給与が上がることや今後のキャリアアップの道が開けることへの期待は低いことが結果として得られた。これは、先行研究（金城ら、2006）における精神科認定看護師を目指した理由の「精神科看護師として自己への問い」、「専門性への意識の高まり」とある意味で合致した内容といえる。しかし、金城らはカテゴリ一問の関連や強さや大きさを明確に示してはならず、本研究において期待の平均値として分析したことで位置づけがより明確になった。すなわち、本研究によって、精神科認定看護師の資格取得前に抱いていた期待は患者ケアのための実践力を向上させることであったことが示唆された。さらに、このことから、精神科認定看護師育成のためのカリキュラムにおいて実践力を重視した内容になっているかを精査し、検討することの重要性が示唆された。

【結論】精神科認定看護師は、資格取得前に知識と技術を高めることで担当患者へ質の高いケア提供を期待しており、自身の給与が上がることや今後のキャリアアップへの期待は低かったことが明らかになった。さらに、精神科認定看護師の育成において、患者へ質の高いケアを提供できる実践力をより重視したカリキュラムのさらなる検討が必要である。